

見沼中学校区における学校再編成に関する説明会 会議録（北河原・地域）

- 1 開催日時 令和2年11月21日（土）午前8時30分～午前9時10分
- 2 開催場所 北河原公民館ホール
- 3 出席者 18名
- 4 教育委員会 鈴木教育長
 学校教育部 吉田部長、荻原参事、諸貫次長
 学校教育課 須永主幹
 教育総務課 上野主幹、久積主査、柏瀬、田沼

5 会議内容

発 言 者	会議の経過（議題・発言内容・結論等）
司会	1 開会
鈴木教育長	2 あいさつ
鈴木教育長	3 意識調査の結果及び今後の方向性について
出席者	4 質疑 <p>今回の義務教育学校計画の白紙は非常に残念に思っている。問題の多い義務教育学校ではあったが、北河原小の現状を考慮すると、学校再編成はやむを得ない、見沼中と一緒にした義務教育学校も致し方ないという気持ちでいた。今日の資料にもあるが、荒木地区を中心とした住民や保護者から義務教育学校への反対の意見があり、教育委員会が意識調査を実施した。荒木地区は73%、須加地区は55%、全体は62%の反対票が投じられ、結果として白紙となった。今まで教育委員会は各地区において説明会をやってきた。その説明会において同意が得られたものとして義務教育学校設立のための事業に入ったと私は思っていた。その結果として、3つの部会を設けて、部会の皆さんが努力を重ねて新校の名称まで決まった。温故創生にもそうあった。にもかかわらず、このような結果になった。私はそんな馬鹿なことがあるのかと正直思った。教育委員会の進め方の甘さを感じる。何を基準に各地区の同意を得たのか、同意を得たのであればこのような事はあるべきではない。同意を得ないからこそ、荒木地区から反対の意見が上がったのだと思う。同意を得たのであれば意識調査をやる必要はなかった。説明会で質問をすると、言葉巧みに焦点をそらして、逃げていような意見を言うが、それが各地区の意見に対して真正面から立ち向かっていない証拠である。今回の結果については困ったという気持ちでいる。北河原小は複式学級で児童が十分な教育活動を実施できていないので、それをうまく実施してもらいた</p>

出席者	<p>い。この前にも説明会があったようだが、その時にはどここの小学校にでも行けると、いくつかの小学校の名前があがった。私たちはその学校の名前が頭に残っている。今日はその小学校の名前をあげてなかった。それはどのような判断なのか。保護者によっては、あそこに行けるのであれば行こうという気持ちでいるので、軽々しくそういった事を言うと、遺恨が残る気がするので、失言には十分注意してほしい。説明不足というか詰めが甘いので、しっかりとやってもらいたい。</p> <p>今回の件は、北河原地区は蚊帳の外で、何が起きているのかよくわからない状況である。北河原小は9月に閉校記念事業をどうするかを学校運営協議会で話し合っている段階まで来ている。その中で、こういう事になって、驚いている。荒木地区の嘆願書の中に、過小規模校の受け入れに賛成とあるが、これは我々が南河原小学校と統合できなかった最大の要因だと思う。「過小規模校を受け入れます」という立場でやってもらおうと、統廃合はうまくいかないと思う。そういう嘆願書になっている。それから教育費について、基本的に私は教育にはお金を使って良いと思っている。これからを支える子供達にお金が惜しいからというレベルで話してもらいたくない。費用対効果もあり、無駄は駄目だと思うが、基本的には教育を重点的にやってほしいと願っている。これから荒木地区と話し合わないといけないと思うが、この地区をどうするのか。教育委員会が義務教育学校を作りたいのは、この地区に学校を残すためには義務教育学校を作るしかないという結論だと思う。確かにそれはそうだと思う。荒木地区が荒木小で受け入れますとなれば、小学校は荒木小に行くかもしれない。でもそれは10年持たないと思うし、見沼中は統合になる。義務教育学校をやめるという事は見沼中学校区には学校がなくなるという前提で物事を進めないといけないという事を署名等は理解しているか。この義務教育学校をどれだけ理解して、反対の署名をしているのか。教育委員会に説明しろと言っていたが、どれだけ十分説明できていたのかという事も問題があると思う。このままでは地区のコミュニティが崩壊する。南河原小学校に行く人もいるし、荒木小学校に行く人もいるしでは、子供会や育成会など地域のコミュニティが分断される事で消えていく可能性が大きい。最後に、この決定は総合教育会議で決定したものなのか。タウンミーティングでの市長の発言は色々問題がある。10年後に北小と一緒にとなるとは考えられないと言っているし、そういう中で教育委員会が担ってきた役割が市長とからむことで本来の姿ではなくなってきたと思う。それは色々議論があると思う。</p>
出席者	<p>今後の事について確認だが、複式学級の解消は最優先で、北河原小と</p>

<p>鈴木教育長</p>	<p>須加小などという言い方をしていたが、現時点でわかる範囲でいいので、方向性にも繋がる事なのでもう一度説明してほしい。令和4年を意識して発言している雰囲気もあったので、そこも含めて聞かせてほしい。</p> <p>まず、令和4年についてだが、今後北河原小と須加小はさらに減ってしまう可能性があり、北河原小はこれまで10年近く複式学級でもがんばってきたので、なるべく早く解決するために、義務教育学校開校の予定であった令和4年には解消したい。複式学級の解消をどのようにやっていくかは、現時点で教育委員会から方向性を出す段階ではないと考えている。保護者は色々な選択肢を考えていると思うので、北河原小と須加小の意見を丁寧に聞いていく。コミュニティの件もあるし、統廃合の問題もある。保護者も意識調査をしたことで、自分たちの子供がどのような学校を選ぶのか、地域をどうしていきたいかなど認識が深まっている所だと思う。今までは総論的にはわかっていたけど、自分の子供と地域の今後を現実問題としてどうするのかについて向き合っている所だと思う。保護者の意見を丁寧に聞いた上で、可能な選択肢を設けて、話し合いをしていきたい。</p>
<p>出席者</p>	<p>教育委員会が決めた小学校、中学校が半減する計画を進めてきたが、この地区では破綻した。あの計画はパブリックコメントをとっただけだったので、もう少し住民と考えていくべきだと思う。違うと言うかもしれないが耐用年数を基準に作っている。地域で話し合っていて進めていかないと、どの地域でもこのような事になってしまう。計画を広めて、具体的に話し合っていないと、全体計画が駄目になってしまう。</p>
<p>出席者</p>	<p>統合について基本的に住民の理解を得る努力が足りない。北河原と南河原の時も住民の理解が必要と教育委員会は口だけ言っていたが、確かに北河原については閉校含めてよく説明をしていたが、南河原にはほとんど説明していなかった。向こうの人の理解が得られなければ、両者が一緒になる事は難しい。「北河原が困っているから、来れば入れる」という発想で迎えられたら、統合した後でどういう問題が起こるか考えればわかる。今回についても、理解はなんとかあるだろうという甘さがある。廃校する学校へは説明しているが、受け入れ側には説明がなかったのが大きい。これから複式学級の解消がどうなるかわからないが、昔の様な北河原と南河原でやるかもしれないが、両方が一緒になってどうやって学校作りをするのかという基本的な事を教育委員会がきちんと説明しないといけない。「北河原が困っているから救ってやる」という有</p>

	<p>利な立場で進める事を、教育委員会が私たちの気持ちを受け入れて何とかしようとして南河原と話し合っ、結論が出たのは教育委員会が壊した。具体的な計画を作る前に地域の理解を得る努力をもっとするべきだと思う。教育委員会への反発もかなり出ている。複式解消と言うけれど、本当に解消したい、北部の学校を残したいなら、教育にお金をかけて、既存の学校を使うのではなく、新しい学校を作れば全員が集まる。行田市の学校再編なので、住民が積極的に学校の在り方を考えるような組織で作っていかなければならない。教育委員会の取組みの甘さと今までの反省が生かされないから、今後も心配なので、もう少し地域の人たちの教育に対する気持ちを大事にしてもらいたい。</p>
出席者	<p>義務教育学校の設立は何年もかけて、教育委員会が威信をかけて事業に携わってきた。北河原小は複式学級で現場が困っているので、令和4年には解消したいと意見が出ているが、義務教育学校の設立から比べると簡単だと思ってもらっては困る。気力が薄れている様子だが、義務教育学校を作るのと同じくらい情熱を傾けて、複式学級の解消のために新しい組織を作っていくという気持ちで取り組んでもらわないと地域住民や保護者からすれば困る。言うのは簡単だが、教育委員会としては作る側なので非常に大変な訳だが、地域住民や保護者が安心して子供達を託せるような学校を作ってもらいたい。</p>
出席者	<p>色々意見はあると思うが、残念だった。校名も最終段階まで来ていたので、「出ていった人が戻ってくる可能性があるから、決まったら連絡してやろう」という話を聞いた事がある。教育委員会の方で決まった段階で住民に周知があっても良いかと思う。全部の人が賛成はないので、よろしくお願いします。</p>
司会	<p>5 閉会</p>